

<p>1. 主催者・共催者名 一般社団法人海外環境協力センター（OECC）・北京師範大学（BNU）</p>
<p>2. タイトル 統合的リスクガバナンスー気候変動適応へのアプローチ</p>
<p>3. 目的・概要 近年研究が進展している統合的リスクガバナンス（Integrated Risk Governance: IRG）を気候変動適応のアプローチの一つとしてとらえ、開発途上国での取組の計画策定や実施に関する具体的事例や今後の課題について紹介を行った。</p>
<p>4. アジェンダ</p> <p>（1）“気候変動適応計画策定における統合的リスクガバナンス～地方自治体における適応対策を題材として～</p> <p style="text-align: right;">（一社）海外環境協力センター（OECC） 主席研究員 加藤真</p> <p>（2）統合的リスクガバナンスについて</p> <p style="text-align: right;">北京師範大学（BNU）／IHDP 統合的リスクガバナンス・プロジェクト 教授 Qien Ye</p> <p>（3）中国における環境意識の変化とリスク対応について</p> <p style="text-align: right;">厦門大学 エネルギー経済研究センター 研究員 Honxia Duan</p>
<p>5. 発表・議事の概要</p> <p>○ 統合的リスクガバナンス(Integrated Risk Governance)とは、自然災害や社会の構造変化など様々なリスク要因を考慮し、それらに対して統合的な対処をする考え方である。気候変動の悪影響については、リスクの評価自体は気候変動に起因するものとそうでないものとの区別をする必要があるが、具体的な計画策定・実施の局面においては、他のリスクへの対処と統合した取組を行うことが必要となっている。実際に、地方自治体等においては、気候変動によりもたらされるリスクへの対処は、他の自然災害等をも含めたリスク管理全体の中でとらえられている。</p>

○ 昨今の大規模自然災害の中で、特筆して注目されているのは気候変動の悪影響が原因と思われるものであるが、これらに対する対応については、必ずしも成功しているものとは言えない。また別途、防災対策分野の取組も世界規模で進展しつつあるが、これら二つのコミュニティは意思疎通が取れているとは言い難い状況である。今後、本格的にリスクをとらえ、対処をしていくに当たって、多角的な視点でリスクをとらえ、国家や地域の計画に反映をさせていくことが必要である。

○ 途上国における環境保全を進めるに当たって、市民に対する普及啓発は重要な役割を有する。とりわけ、中国においては、環境問題に対する意識の変化が多くみられ、とりわけ経済成長を遂げ所得レベルが向上した沿海部の都市住民については、とりわけ環境意識が高くなっている。気候変動対策についても、これらの意識変化をとらえ、対策推進の参考とすることが重要である。

## 6. 会場写真

